

学校教育目標	力強く生き抜く生徒の育成
目指す学校像	生徒が主体的に学び、互いの良さを認め合う、活気ある学校
重点目標	1 自立した学習者の育成 (学習者が主体的に学ぶ授業の実施、ICTの効果的な活用) 2 発達支持的生徒指導の充実、不登校生徒等への学習支援、生徒会活動の充実 3 CS (学校運営協議会) の充実、体験活動の充実、地域催事、ボランティア活動への参加 4 安全・安心な教育環境整備 (校内安全点検の徹底、安全指導の充実) 5 働き方改革の一層の推進、学校課題研究の推進

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日令和8年2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ○市の学習状況調査では概ね良好な結果である。また、「将来に夢や希望をもっている」と回答した生徒が、市の平均を上回っている。 ○授業に積極的に参加する生徒が多い。 ○友達と協力することが楽しい生徒が多い。 【課題】 ○市の学習状況調査では、国語に課題が見られる。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」との質問で、市の平均を下回る。	基礎的汎用的能力の育成	①「さいたまエンジン」の取組を当該学年以外にも周知する。 ②基礎的汎用的能力の育成を目標にした公開授業を全教員が年1回以上実施し、相互評価を行う。 ③教育データの効果的な利活用について、本校のシステムを構築する。	①基礎的汎用的能力に関する生徒アンケートの結果 ②校内で授業を参観し合う回数が、きちんと達成できているか ③教育データの活用事例を、校内で共有できたか	・基礎的汎用的能力に関する生徒アンケートで、2学期は上昇した。「さいたまエンジン」でグランプリを受賞した。 ・すべての教員が、校内で公開授業を実施。管理職も全ての授業を参観。 ・おはようメーター、授業アンケートの取り組み方について検討を重ねた。	B	●おはようメーターと授業アンケートは、取り組み方の検討ができたので、次年度は実施していきたい。 ●公開授業参観を通して、教員間で相互評価を行うことができた。 ●指導と評価の一体化をめざし、教育データの活用に関する研修を行う。	・「さいたまエンジン」で全国大会に出場したことは大変すばらしい。今後もその取り組みを続け、さらに発展させてほしい。 ・先生方が、相互に授業参観をして互いに高めあう取組が良い。 ・A評価は、達成度が8割以上なので、客観的に評価すると、B評価の項目も、A評価にしても良いのではないかと感じる。
		自立した学習者をはぐくむ教育の推進	①「個別最適な学び」と「協働的な学び」、「探究的な学び」を目指した授業改善をおこなう。 ②校内研修でカリマネデザインマップを見直す。	①ICTを活用した協働的な学びが実施できたか ②カリキュラム・マネジメントの実施状況	・授業でICTを活用しているかを問う生徒アンケートにおいて、2学期の結果が1学期の結果を大きく上回った。 ・全教員で、カリマネデザインマップを見直した。	A	●「個別最適な学び」について深めることができなかった。 ※教科横断の視点をもって、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に展開できるように、研究を深める。	
2	【現状】 ○大多数の生徒が、相手を思いやる態度や、いじめを許さない心をもっている。 ○長期にわたり欠席している生徒が複数名おり、個に応じた学習に取り組んでいる。 【課題】 ○個別支援が必要と思われる生徒が複数名いる。 ○改訂された生徒指導提要に基づく生徒指導の在り方の見直しを行っているところである。	生徒指導体制、教育相談体制の強化	①いじめ防止の取組を充実させるとともに、いじめ(疑い含む)が発生した場合には組織的にいじめに対応する。 ②欠席が長期にわたる生徒への学習支援について、生徒に寄り添いながら、組織的に支援する。	①学校評価のいじめに関する項目の回答状況 ②不登校生徒が、個に応じた学習支援や関係機関からの支援を受けているか	・学校評価のいじめに関する項目で、保護者の肯定的回答が、昨年度より増えた。 ・Sola 一むの本格的運用を始め、不登校傾向にある生徒に寄り添った支援が可能となった。	A	●スクールロイヤーによるいじめの特別授業を実施した。 ●Sola ルームの効果的な活用により、不登校の未然防止につながった。 ※次年度も、専門家による特別授業を、1年生の早い段階で計画したい。 ※不登校生徒への学習支援を充実させたい。	・生徒同士のトラブルについて、生徒会の生徒に投げかけて、自分事として考えて行動させることも大切ではないかと感じる。 ・子どものしつけは、家庭の責任である。もっと、保護者が学校に協力し、子どもを見ていく必要がある。 ・Sola ルームが昨年度より活用されていて良い。不登校等の問題は社会の問題でもあるが、宮前中学校は丁寧に対応していると感じる。
		発達支持的生徒指導の推進	①学校の課題を把握し、発達支持的生徒指導を軸に据えた改善策を検討する。 ②生徒指導部や学習部が中心となり、組織的に取り組む。	①学校評価で、「学校へ来るのが楽しい」の項目の回答状況 ②学校評価の、生徒指導関連項目の回答状況	・学校評価で「学校へ来るのが楽しい」の項目は、生徒・保護者共に微減となった。 ・学校評価(教職員)の生徒指導関連項目の肯定的回答は、減少した。	B	●中1ギャップを感じる場面が多くあったと感じる。 ※小学校との連携強化や、認め合い活動を中心とした発達支持的生徒指導の充実を図りたい。	
3	【現状】 ○地域行事やボランティア活動に、積極的に参加する生徒が多い。 ○学校と地域や保護者の連携については、良好な関係にあると捉えている。 【課題】 ○学校と保護者や地域との連携について、持続可能な形を見直す時期にきている。	学校と家庭、地域の連携	①学校運営協議会では、生徒と一緒に討論する機会を設ける。 ②地域の伝統行事や、ボランティア活動への参加を、積極的に呼びかける。 ③PTA 活動の見直しを行う。	①学校運営協議会委員へのアンケートの回答状況 ②生徒の地域ボランティアの参加率が、昨年度より上昇する	・学校運営協議会委員のアンケートの回答は良好であった。 ・生徒の地域ボランティアへの参加実人数は増加した。	A	●学校運営協議会において、生徒と学校運営協議会委員が協議をする場をもつことができた。 ※次年度も、地域の課題について、学校運営協議会委員と生徒が協議する場をもちたい。	・自主的に取り組むことができている、とても良い。 ・学校が地域の活動に参加することも良いが、地域が学校にボランティアとして参加する方策も考えていけると良い。 ・花植えボランティアは17年続いており、単身の高齢者が毎年楽しみにしている。喜んでお年寄りの顔を実際に見てほしい。 ・行灯作りは4年目となるが、中学生は大きな戦力となり、大変助かっている。
		教育活動の情報発信	①学校だよりや学校ホームページを活用し、情報発信を行う。 ②保護者連絡アプリ等を導入し、学校の情報が保護者へ直接届くようにツールを活用する。	①学校ホームページの定期更新 ②保護者連絡アプリに関する保護者アンケートの回答状況	・学校ホームページは、学校だよりの更新を迅速に行った。 ・保護者連絡アプリの試験導入後のアンケートでは、概ね好評だった。	B	●学校だよりや学年だよりを保護者連絡アプリと学習者用端末で配信した。 ※次年度は、保護者連絡アプリを本格導入し、学校からのお知らせを家庭に確実に届けたい。	
4	【現状】 ○多目的に使用できる部屋の数が少ないが、各種会議や対応の際には協力し合い、工夫して利用している。 【課題】 ○施設設備の老朽化により、安心・安全とは言えない状況があるので、計画的に整備していく必要がある。 ○交通ルールに対する生徒の意識が高いとは言えない状況がある。	安全・安心な教育環境の整備	①毎月の安全点検や日々の日常点検の確実な実施と、迅速な修理等の安全管理を徹底する。 ②交通安全に関して、地域住民と生徒が協議する場を設定する。	①安全点検を確実に実施し、迅速に修繕等の手配を行ったか ②生徒対象の交通安全に関するアンケートで、生徒の意識が上がったか	・毎月の安全点検では、修繕等が必要な個所の対応を迅速に行った。 ・生徒対象の交通安全に関する意識はアンケートでは向上したが、実態が伴っていない。	B	●引き続き、修繕等が必要な個所の対応を迅速に行うことができた。 ※施設設備の計画修繕を行っていく。 ●生徒の交通安全の意識は向上した。 ※実態が伴うよう、生徒自ら行動できる取組を充実させたい。	・修繕等が必要な箇所があれば、地域にも相談してほしい。協力できることがあると思う。 ・登下校の交通安全について、HPで情報を発信したり、地域にも呼びかけたりした方が良い。看板を作るなど、できることからやってみてはどうか。
		災害時等に備えた体制整備	①水害時の被害を想定した安全点検の実施と、課題に対する対応。 ②危機管理マニュアルを、教職員に周知する。	①学期に一回、水害等を想定した安全点検を実施したか ②危機管理マニュアルに関する校内研修を実施したか	・毎月の安全点検では、月によっては水害や震災の視点を加えて実施した。 ・安全主任による危機管理マニュアルに関する校内研修を実施した。	B	●水害や震災の視点を加えた安全点検により、教職員の危機管理を高めることができた。 ※危機管理マニュアルに基づいた訓練等を実施していきたい。	
5	【現状】 ○教職員は、互いに学びあう姿勢で業務に取り組んでいる。 ○研究推進部を中心に、組織的に学校課題研究に取り組んでいる。 【課題】 ○ワークライフバランスの実現ができていない教職員がいる	校内研究体制の充実	①授業研究日が有効に活用できるよう、研究推進部からテーマを発信する等の工夫を行い、授業力の向上を図る ②「生徒が主体的に学ぶ授業」の実現に向け、外部講師を招聘した研修を実施する。	①「学びの指標」アンケートの2回目の結果が、1回目を上回ったか ②外部講師を招聘した校内研修を実施できたか	・学びの指標アンケートでは、すべての項目で、2回目の結果が1回目を上回った。 ・外部講師を招聘した校内研修を2回実施した。	A	●校内研修を計画的に行い、「学びの指標」アンケートで効果があった。 ※ICTを有効活用しながら、「生徒が主体的に学ぶ授業」に向け、引き続き校内研修、実践を充実させていく。	・教員も生徒も、よく頑張っている。 ・教員は、自己評価を厳しくしがちだと思う。働き方改革の項目以外はA評価で良い。 ・働き方改革を行い、教職員の心身の健康管理も行ってほしい。
		教職員の教育に係る意識や知識の向上(エージェンシーの向上)	①教職員への啓発資料を作成し、掲示もしくは配付する。 ②在校時間や年休取得状況を意識させ、計画的でメリハリのある勤務体制を目指す。	①月に1回程度、啓発資料を作成したか ②職員の時間外在校時間の平均が、昨年度より減少したか	・働き方改革に関する啓発資料を定期的に発行することはできなかったが、業務改善案を全教職員で検討した。 ・時間外在校時間は、1学年だけ減少できなかった。	B	●全教職員が時間外在校時間を減少することができなかった。 ※業務改善案を検討し実践することで、時間外在校時間を減らしていく。	